

学校だより
長泉小学校

☆学校教育目標 「自ら考え 高め合いながら 伸びる子」

◎重点目標＝キーワード
重点生活目標

「思いをもちかかわり合う」
「あいさつがひびき合う学校・地域」

あすなろ

No.11 令和元年 11月6日

ONE TEAM (ワン チーム)

校 長 日吉美矢子

令和の時代が始まり、早くも6か月が過ぎました。

10月22日には、即位礼正殿の儀が催され、今年も、新たな時代のスタートを切った、記念すべき、特別な年という思いを、再び、強くしています

この新しい時代のスタートにふさわしく、ラグビーワールドカップが初めて、日本で、アジアで開催されました。日本が、初めてベスト8に入り、決勝トーナメントに進んだ一戦一戦の雄姿は、日本国民に、そして、未来を担う子供たちに多くの夢と感動を与えてくれました。多種多様な人種が集まる桜のジャージーを着た日本代表。スローガンの、「ONE TEAM (ワン チーム)」の合言葉は、私たちの心に深く刻まれました。それぞれのルーツに関係なく仲がよく、互いに尊重し合い、同じ目標に向かって心をつなげて勇気に立ち向かう姿は、私たちが常に目標にしたい姿だと感じました。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」、ラグビー日本代表の活躍は、新しい令和の時代に日本が理想としている姿そのものなのかもしれません。

さて、長小では、10月30日、31日に、6年生の東京への修学旅行が行われました。スローガンは、「協力」。個人旅行でなく、集団行動だからこそ、みんなが楽しい旅行にするためには、協力は一番大切な事柄です。将来に向け、自分の気の合う人だけでなく、どんな人ともうまくやっていける力を付けること、そして、来年度は別れ別れになってしまうかもしれない仲間との友情の和を更に広げるために、各クラス共、グループ編成は、決して好きなもの同士ではありません。あまり話したことがない友達と、同じグループになったという人も多かったことでしょう。その中で「協力」は、6年生一人一人の本物の力と心が試される場面でもあります。

ぬけるような秋晴れの暖かな天候に恵まれ、半袖、短パンで過ごす児童が見られる旅行もかつては経験がないことです。1日目は、国会議事堂、日本科学未来館、そして東京タワーへの研修でした。そして、宿泊先は、千葉県のホテル三日月。バイキングと大きなお風呂、友達とのふれあいは、子供たちが最も楽しみにしているひとときです。2日目の研修は、上野・浅草での班別行動。上野では、上野動物園と国立科学博物館での見学、そして、浅草では、浅草寺を訪れ、お土産を買うのも、安心・安全を考え、グループでの行動です。

この2日間、子供たちは、集団の中の一員という自覚をもち、時間を守ることや集団のルールを守ることを意識し、しっかりとやりきることができました。そして、バスの中をはじめ、グループ行動では、どの班も、明るい笑顔と会話であふれ、お互いに呼び掛け合ったり、励まし合ったりしながら、皆で協力し合い、修学旅行を心から楽しむ姿がありました。

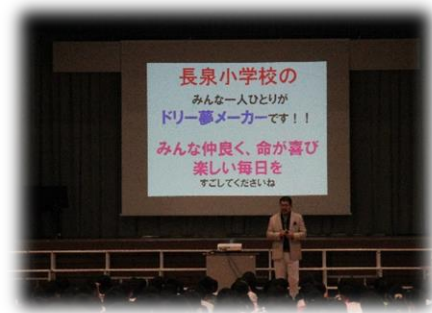
ガイドさんの話をしっかりと聞いたり、また、バスを降りるたびに、運転手さんにあいさつをしっかりとしたりする姿、また、偶然いっしょになった班の友達とも仲良く協力して過ごした6年生は、心温かく、実に立派でした。まさしく、ワン チームとして、修学旅行を大成功に導いた姿でした。

11月、学校では、長小フェスティバルや持久走記録会が行われます。これからも、それぞれの目的を共有し、その目的に向かって、皆でかかわり合い、頑張る過程を大事にしていきます。そして、長小のワン チームとして、学習はもちろん、皆で頑張ったからこそ感じられる充実感や達成感を大事にし、一步一步前進していきたいと思えます。



<児童教育講演会開催>

10月8日(火)、元・中学校体育教師で、現在『命の授業』講演家である腰塚勇人さんをお迎えし、4, 5, 6年生(約520名)を対象に教育講演会を開催しました。保護者、ちょこばなスタッフ、学校評議員の皆様にも参加を募ったところ、60名ほどの方々が一緒に参加していただき、子どもにとっても、大人にとっても、とても有意義な講演会となりました。



腰塚勇人さんは、スキーでの大事故で首の骨を折り、全身マヒの体になってしまいました。しかし、その後、懸命のリハビリにより社会復帰できるまでに回復し、事故をきっかけに人生も人生観も大きく変化されたとのこと。2010年に教職を辞し、現在は全国各地にて『命の授業』の講演を行っています。

今回の講演会の中で、腰塚さんは「5つの誓い」を話してくださいました。



○「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。

○「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。

○「目」は、人のよいところを見るために使おう。

○「手足」は、人を助けるために使おう。

○「心」は、人の痛みがわかるために使おう。

そして、「命や当たり前の大切さ」や「ドリー夢(ム)メーカー」として、「命の喜ぶ生き方」について、子どもたちにメッセージを残してくださいました。以下は、そのメッセージを受け止めた子どもたちの感想です。(抜粋)

- 腰塚勇人先生は、全身マヒを患って「大変だな」と思った。でも、ドリー夢メーカー・3年1組の皆の思い・腰塚先生の夢が、3年1組への完全復活を導いたのだと思った。ぼくは、腰塚先生の言葉から、今一度、命の使い方を見直すべきだと思った。
- わたしの心の中には、ドリー夢メーカーとドリー夢キラーがいると思いました。言葉が人を傷つけるのか傷つけないのかは、自分が言う言葉次第だと思いました。自分は、人を傷つける言葉を言っているのか、傷つけない言葉を言っているのか、意識して話したいと思いました。
- わたしもだれかのドリー夢メーカーになって、助けられる人になりたいと思いました。そして「5つの誓い」を大切に、だれかを元気づけられたらいいなと思いました。今日は、とても大切な命の話について学んだので、それを幸動(こうどう)していきたいと思いました。

<PTA行事ナイトウォーク>

10月5日(土)、PTA主催事業として「長小ナイトウォーク」を開催しました。600名弱の子どもたちの参加がありました。そして、6名程度のグループを作り、夜の校舎を探検しました。途中途中、ボランティアの児童や保護者、教員がお化けに扮し(優しく)驚かす中、「キャー。」という子どもたちの悲鳴が絶え間なく夜の校舎に響き渡りました。PTA役員の皆様の綿密な計画とボランティアの方々のご協力で、大盛況のナイトウォークでした。ありがとうございました。



★ 10月26日「土曜参観日」へのご来校ありがとうございました

1~4年生のリレー大会をはじめ、3時間の公開において多くの授業を見ていただき、ありがとうございました。11月22日(金)の「長小フェスティバル」もぜひお越しください。また、重ね重ねのお願いになりますが、近隣商業施設への駐車は、ご遠慮願います。